

第2期
南伊勢高校度会校舎活性化計画

平成30年12月
南伊勢高校度会校舎活性化協議会

目 次

| | |
|------------------------|---|
| はじめに | 1 |
| 1 南伊勢高校度会校舎の現状と課題 | 1 |
| 2 南伊勢高校度会校舎活性化の基本的な考え方 | 2 |
| (1) 生徒・保護者の意向から | 2 |
| (2) 活性化に向けた組織体制 | 3 |
| (3) 活性化計画の期間 | 3 |
| 3 活性化のための具体的な取組 | 4 |
| (1) 進路支援プロジェクト | 4 |
| (2) 地域連携プロジェクト | 5 |
| (3) 通学支援プロジェクト | 6 |
| (4) 学校広報プロジェクト | 6 |

資料

- 南伊勢高校度会校舎活性化協議会要綱（平成26年5月30日）
- より魅力ある学校づくりに向けたアンケート調査
（平成29年度 南伊勢高校度会校舎活性化協議会）

はじめに

三重県立南伊勢高校度会校舎は、戦後間もない昭和23年に、地域の若者を育成する教育機関の設置を強く求める地域住民の要請を受け、三重県立明野高等学校内城田分校（定時制の農業科と家庭科）として、この度会の地に創立されました。

昭和49年には、三重県立度会高等学校（普通科）として独立し、一時は募集定員を225名としましたが、少子化により平成9年には80名、平成16年には度会郡内の南島高校・南勢高校と統合され3校舎制の南伊勢高校として新たに出発をしました。その後も少子化の進行により、南島校舎の募集停止や南勢校舎の定員縮小がなされ、現在の度会校舎（定員80名）・南勢校舎（定員40名）の2校舎制となりました。

創立以来、幾度かの変遷をたどりながらも、地域の高等学校として人材育成の一端を担ってきましたが、少子化による生徒数の減少、定員割れの状況はより深刻になってきています。

そこで、活力ある教育活動と地域に開かれた信頼される魅力ある学校づくりを進め、地域社会の人材育成と地域発展をより図ることを目的とし、平成26年9月に「南伊勢高校度会校舎活性化計画」が策定されました。

この計画に基づく5ヶ年の事業実績と今後の見通しなどを踏まえ、「第2期南伊勢高校度会校舎活性化計画」を策定します。

1 南伊勢高校度会校舎の現状と課題

南伊勢高校度会校舎は、全日制課程・普通科として南勢校舎とともに、2校舎制をとっており、一学年の募集定員は80名です。平成30年度入学者数は43名（募集定員の約54%）であり、平成28年度入学者数60名、平成29年度入学者数67名に比べ大幅に減少しており、募集定員を充足できない状態が近年続いています。

度会校舎へ入学する生徒は、度会中学校を卒業した町内在住の生徒のほか、伊勢市、玉城町、南伊勢町ならびに大紀町や明和町など、近隣市町からも多く見られます。平成30年度入学者の割合は、伊勢市内より23名（53.7%）、南伊勢町内より2名（4.6%）、度会町より6名（13.9%）、玉城町内より10名（23.2%）、

多気町等より2名（4.6%）で、地域にありながらも町内中学校卒業者の入学希望が伸びていないことが、現状からうかがえます。

教育活動では、地元小学生とともに茶摘み体験をしたり、部活動において中学校と合同練習をしたりと異校種間連携や地域交流行事など、地域の多様な主体と協働した取組や、ボランティア活動への積極的参加など、生徒が主体的に参画する実践型教育活動に加え、自分たちの通う地域をより深く知ってもらうため、地域の旧跡やそれにまつわる歴史などについても学び、自ら多くの人たちに説く活動もしています。

度会校舎卒業後の生徒の進路希望は、就職を希望する生徒の割合が多いため、多種多様な資格取得を推進し講座を開催しています。また進学（専門学校を含む）を希望する生徒には、課外授業を実施するなど小規模校として個々の希望に応じたきめ細やかな進路指導を行っています。各学年において、卒業後の進路について考える機会を数多くもち、早期から、それぞれ進路目標を実現できる力の育成に励んでいます。

一層幅広い生徒のニーズに対応できるよう、大学や短期大学の情報収集、オープンキャンパスへの参加推奨、公務員希望者への課外授業等の専門的支援、また就職希望者のための求人開拓など普通科高等学校ができ得る可能性を広め、生徒の進路希望の幅を拡充させるため多種多様な事業を展開しています。

2 南伊勢高校度会校舎活性化の基本的な考え方

（1）生徒・保護者の意向から

平成29年4月に南伊勢高校度会校舎1年生、度会中学校3年生、同保護者を対象に実施したアンケートにおいて、どんな高校へ進学したいか（どんな高校へ進学をすすめたいか）や、進学したい（進学させたい）学科についてたずねた結果、中学3年生の生徒は、県立高校普通科44.1%、県立高校専科28.6%、私立高校14.3%、国立高専0.8%でした。保護者は、県立高校普通科36%、県立高校専科20%、私立高校9.3%、国立高専6.7%でした。通学可能とする時間は、生徒が1時間以内が46%、次いで30分以内が22.4%で、保護者が1時間以内が69.

5%、次いで1時間30分以内が16%、30分以内が11.6%となっており、地域（地元）の中で学べることよりも、通学距離が遠くても将来の進路についてじっくり考えることができる高校、進学したいという希望を実現できる高校、卒業後に役立つ知識や技術が学べ、色々な資格を取ることができる高校を求める割合が高いことがわかります。

また、学科別では「普通科」が最も多く、生徒、保護者ともに約4割を占めており、高校在学中での進路選択を見据え、将来に向けての学力や知識の定着、また広い進路選択肢を求めていることがわかります。

（２）活性化に向けた組織体制

度会校舎の魅力化・活性化に向けた取組方策の検討と活性化計画を策定する「南伊勢高校度会校舎活性化協議会」を地域代表、保護者代表、行政関係者および学校・教育関係者などの代表者から組織し、平成26年5月30日に設立しました。

さらに平成29年3月に「県立高等学校活性化計画」が策定されたことに伴い、より地域とのつながりを深く持つため、高校入学直前の中学校関係者だけでなく、地域の小学校関係者、町教育委員、県教育委員会からも協議会委員を委嘱し、南伊勢高校度会校舎を支える連携体制を固めました。

なお、活性化に向けた実働組織として、「活性化推進委員会」を引き続き協議会の下に組織し、度会校舎教職員と連携しながら、具体的支援策を協議、実施します。

また、南伊勢高校南勢校舎活性化協議会（平成26年6月24日設立）とも連携しながら、同校の活性化に共に取り組んでいきます。

（３）活性化計画の期間

南伊勢高校度会校舎活性化計画は、中期的な視野を持って取組を推進していくことから、5年間（平成31年度から平成35年度まで）の計画とします。

なお、南伊勢高校度会校舎の募集定員を含む学校の在り方等に変更が生じた際は、計画内容や計画期間について見直しを行うものとします。

3 活性化のための具体的な取組

(1) 進路支援プロジェクト

普通科高等学校として、生徒の進路希望の幅を拡充するとともに、進路実現に向けた具体的手立てへの支援を行います。

① 進学対策課外授業

大学・看護系等への進学希望者には、学校側が作成する進学対策プログラムによって、塾等の講師による「国語」「数学」「英語」等の進学対策課外授業を早期から実施します。

さらに、文系希望者には「社会」、理系希望者には「理科」の必要教科・科目の個別対応指導を進めます。

② 自己学習支援

生徒が自学自習できる学習室を整備するとともに、タブレット等情報通信機器を活用した自己学習が行える環境整備を支援します。

③ 基礎学力の定着

学び直しの機会の充実や、生徒の理解に即した授業改善に努め、自己目標の実現に向け、生徒が主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせます。

④ 公務員支援

公務員を希望する生徒には、専門講師招聘による対策講座を実施し、傾向と対策についての個別学習を支援します。

希望者は、度会町役場等でのインターンシップを実施することで、卒業後の進路イメージを膨らませるとともに、進路実現に向けてのモチベーションを高めます。

⑤ 資格取得の促進

普通科でありながら商業科目も開設している利点を生かし、希望者の商業関連資格（ビジネス文書実務検定、情報処理検定）の取得や、漢字検定、英語検定、危険物取扱者試験等における資格取得を促進します。

⑥ キャリア教育

働くことへの意識を深めるとともに、進路目標を具体的に持たせるため、身近な存在である卒業生や地域で働く方と接する機会をつくります。

また、キャリアにつながる講演会を開催したり、個別面談による早期からの意識づけや、挨拶を基盤としたコミュニケーション能力の向上を図ります。

⑦ 就職後ケア・求人開拓

新卒業生の就職先事業所を訪問するなどして、就職後のケアや早期離職の防止に努め、事業所との関係づくりや新たな求人枠の拡張に努めます。

度会町内においては、度会町商工会等の協力の下、連携して求人開拓に努めます。

（２）地域連携プロジェクト

度会町の地域性を活かした郷土学習や体験学習を通じ、生徒らが主体的に考え、行動する力を育成するとともに、度会町への愛着、愛郷心を育むことで、豊かな学校生活を送り、延いては地域全体の活力を高めます。

① 地域学習支援

度会町地域資源を守る会等の協力の下、度会町の史跡巡りや自然・歴史の学習を通じて、度会町の良さを知り、地域の中心となって地域交流行事に参加します。若者の観点から、町観光事業への提案等も積極的に求めていきます。また、従来から実施している茶摘み体験のほか、農業や林業に着目した体験学習も支援します。

福祉職への進路希望を持つ生徒には、度会町社会福祉協議会等の協力の下、地域の福祉施設を利用した実習を支援します。

② ボランティア活動支援

高校生の若い活力を地域の様々な活動の場で発揮し、地域の活性化に貢献する生徒を育むため、生徒がボランティア等で活動できる機会を積極的に提供し、支援します。

③ 施設の利用

従来から実施されている学校図書館の地域開放に加え、小中学生のスポーツ活動や異校種交流事業等の機会を活用し、小・中学生らが度会校舎へ来校する機会を増やすことで、度会校舎への愛着心を育みます。

スポーツ活動においては、実績のある選手や指導者を招き、小中高の児童生徒が共同でスポーツを楽しみ、体力向上に努める機会をつくります。

(3) 通学支援プロジェクト

度会校舎への通学は、徒歩や自転車、路線バスの利用が見られます。近隣市町から路線バスを利用して通学する生徒には、路線の関係上、途中で自転車に乗り換えて通学する区域の生徒も見られます。

町外生徒の進学者希望を多く募るには、通学問題も大きな課題の一つとして、今後検討を進めます。

(4) 学校広報プロジェクト

度会校舎への理解を深めるため、小中学生、保護者ならびに地域住民への広報活動を実施します。

進学先を決める中学生やその保護者は、学校説明会や高校生活入門講座（オープンスクール）、また県教育委員会ホームページの県立高等学校案内等から各学校の情報を得ることができます。進学先の候補となるには、度会校舎の良さを広くアピールし、興味・関心をもってもらうことが第一です。また、「2(1) 生徒・保護者の意向から」でもわかるように、生徒や保護者が求めている情報を具体的に示し、丁寧な進路指導の現状や、少人数の環境だからこそ育まれる関係性をしっかり伝えていきます。

① 出前授業

度会校舎教職員による出前授業を各小中学校で実施することにより、小中学生やその保護者に度会校舎への理解を深めてもらうとともに、親しみをもってもらえるようにします。

② 度会中学校との交流

近隣市町への働きかけも重要ですが、度会中学校の生徒、保護者また教職員とは学校行事や部活動等の教育活動を通じた相互交流を行います。

② 広報活動

学校の取組や生徒らの活動をより多くの方に知ってもらうため、学校ホームページの更新や学校だよりの活用を図ります。また、近隣中学校や学習塾への個別訪問を積極的に行います。

度会町広報紙や町ホームページ等においても、小・中学生との交流の様子を伝え、地域住民への広報活動に努めます。